

2020年12月18日

第68回運輸政策セミナー「Nextインバウンド」シリーズ Vol.3

辻村由佳様 ご報告

「ポストコロナのインバウンド

“Every cloud has a silver lining”」

に対するコメント

文教大学国際学部国際観光学科 教授

運輸総合研究所 客員研究員

小島 克巳

# コロナによる観光需要への影響①

- UNWTO (World Tourism Barometer, Aug/Sep. 2020)
  - 2020年上半期の国際旅行者数:  
対前年同期比▲65.3% (▲4.4億人)
  - 東アジア地域の落ち込みが最大
  - 2019年水準に戻るのには2年半～4年かかる

表1: 2020年上半期の国際旅行者数(対前年同期比)

世界全体	▲65%	米州	▲55%
欧州	▲66%	アフリカ	▲57%
アジア太平洋	▲72%	中東	▲57%
(うち東アジア)	(▲83%)		

## コロナによる観光需要への影響②

- IATA (Industry Statistics Fact Sheet, Nov. 2020)
  - 2020年のRPK(有償旅客キロ): 対前年比▲66.3%
  - 航空需要の回復は2024年

表2: 2020年RPK予測(対前年比)

	対前年比		対前年比
世界全体	▲66%	中東	▲73%
北米	▲66%	中南米	▲64%
欧州	▲70%	アフリカ	▲72%
アジア太平洋	▲62%		

ビジネス需要よりも観光需要が先に回復  
行動変容の結果として、コロナ収束後もビジネス需要はコロナ前の水準には戻らないのではないか

## コロナによる観光需要への影響③

- DBJ・JTBF「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査」

※ 海外旅行経験者6,266人を対象としたネットアンケート、2020年6月実施

- 訪日外国人旅行者数の回復には相応の時間を要する
- コロナ後の旅行先として、日本はアジアではトップ、欧米豪では2位
- 訪日旅行への期待として、コロナ対策の継続を求める声  
がトップ
- 清潔さの維持、正確な情報発信、体験型観光のニーズを  
満たすための準備が必要

出所：(株)日本開発投資銀行・(公財)日本交通公社

# 論点1. コロナ後のインバウンド受け入れ

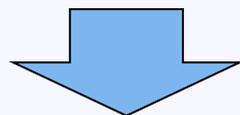
- 受け入れ側の地域住民の受容性
  - オーバーツーリズム＋コロナで観光地は疲弊
  - 「旅行者の意識」と「受け入れ側の意識」との乖離
  
- 「量」から「質」への転換、どうする？
  - 一見客ではなくリピーターを、観光の脱コモディティ化



思いがけない発見、想像力をかき立てるワクワク感、  
人生を豊かにする体験

## 論点2. コロナ後の観光人材

- コロナの教訓として、観光ビジネスの脆弱さ(換言すれば、観光需要の不安定さ)が露わに



- 観光ビジネスの常識にとらわれない発想が必要
  - 観光ビジネスの再考、常識打破
  - 観光需要を創り出せる人材
  - 外部人材の登用 など

# 質問

1. コロナ後の観光政策に必要な視点、これまでの観光政策に欠けていた視点について

(たとえば、量から質への転換、インバウンド依存からの脱却、リピーターの確保など)

2. これからの観光人材に求められるものとは？